

DX時代の企業と情報システム～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割とイノベーションを生み出す超上流作法【会場】（4124147）

DX時代の企業と情報システムにおいて大きく2つの視点から学びます。まずは次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割について、企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。次にイノベーションを生み出す超上流作法について、新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

開催日時	2024年10月16日(水) 18:00-17:00会場 2024年10月17日(木) 18:00-17:00会場
カテゴリ	事業戦略策定・事業継続計画 25戦略策定・25戦略計画・25企画・25企画評価 詳しく見る
総リサラー	WPI(DX)専攻
講師	栗田 幸夫 氏 「株式会社email 代表取締役」 石川 1 氏 に関して、経営からマーケティング、販売までを担当し、業務システムのグローバル展開から先端技術を活用した AI プロジェクトに参画し、JUSIS 活動を通じて、国内ビジネスの革新や企業内イノベーション手法を研究、創造内発によるアイデア発想と論理的思考からの新発想と実現性検証をメソッド化し、DX プロジェクトに対応するフレームワークとしてイノベーション経営戦略（NCC）にて公開、出版スタイルの異業種共創プログラム（Challenge Case）として、自ら自らリーダー兼～開発している。 JUSIS 卒業生（17 名、講師 1 名、専攻 1 名）も参加し、講義参加、テキスト込み【受講権利枚数2枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 10F 会議室（2F 2F）
対象	IT 部門に新たに転任になった方、新入社員～次世代型エンジニア 詳しく見る
組織構成	講師、グループ演習
定員	25名
受講ポイント	※IT 関連カゴネット対象のセミナーです。（カゴネット）
IT 関連キーワード	12

主な内容

■受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

DX時代の企業と情報システムの関係において大きく2つの視点から学びます。

まずは企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。

次にイノベーションを生み出す超上流へのアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

◆DX時代の企業と情報システム 1

～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割

DXという言葉が日常的に聞くようになりましたが、ユーザー企業やその情報部門において、DXとはどのような意味や範囲をさすのでしょうか。

ユーザー企業の経営層やユーザー部門からも最新テクノロジーを活用した業務変革の期待をされることがありますが、流行りのAIや高価なパッケージソフトを導入すれば、IT先進企業に生まれ変わるものではありません。

ビジネスとテクノロジーの両側面を理解し、距離（関係性）を埋めるのが情報システム部門（あるいはDX推進部門）の大きな役割です。

従前の経験や勘などではなく、データとアルゴリズムによって、ビジネスの意識決定や課題解決などを行うにはどうしたらよいか。

次世代型のビジネスプロセスエンジニアとしての役割を学びます。

◆DX時代の企業と情報システム 2

～イノベーションを生み出す超上流作法

デジタイゼーションとデジタルイゼーション。言葉は似ていますが、意味は大きく異なります。

DXを推進するにあたり、必要なのはデジタルイゼーションです。

それでは、これに必要なスキルは何でしょうか。

問題解決や生産性向上のあらゆる場面において、ロジカルシンキング（論理）はビジネスパーソンには当然必要です。

そこにさらに、新しいことを考え出す感性、イノベーションを生む創造力が不可欠になります。

本講座では、ビジネスイノベーションのしくみと新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を手を動かしながら学んでいきます。

■参加者の声

考え方や事例を交えて話していただいたため、とても理解しやすかった。

ビジネスプロセスエンジニアに求められる思考法を、非常にわかりやすく教えてもらえる。

実践したワークも身近なテーマを基にしたものが多く、どんなバックグラウンドを持つ人でも理解しやすい内容と感じた。